

| |
|----------------|
| 7 題不詳 |
| Title Unknown |
| 1958頃 |
| コンテ・紙 |
| conté on paper |
| 41.4×30.6 |
| 2017年伊藤亜古氏寄贈 |
| 2-D-1625 |

| |
|----------------|
| 8 題不詳 |
| Title Unknown |
| 1958頃 |
| コンテ・紙 |
| conté on paper |
| 41.4×30.6 |
| 2017年伊藤亜古氏寄贈 |
| 2-D-1626 |

| |
|----------------------------|
| 9 題不詳 |
| Title Unknown |
| 1958頃 |
| コンテ・紙 |
| conté on paper |
| 35.6×25.0 |
| 2017年伊藤亜古氏寄贈 |
| 2-D-1627 |
| *6~9は、4の人物表現を下書きしたものと思われる。 |

| |
|------------------------------|
| 10 瓜子姫と天邪鬼 |
| Princess Uriko and Amanojaku |
| 制作年不詳 |
| 紙本着色 |
| colored pigment on paper |
| 41.0×53.0 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-B-38 |

| |
|---------------------|
| 11 コスモス |
| Cosmoses |
| 制作年不詳 |
| リトグラフ・紙 |
| lithograph on paper |
| 29.5×45.3 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-E-1629 |

*11、12は、摂が飼っていた愛猫がモチーフ。お見舞いとして、摂が矢内氏に贈呈した。二人は5歳の頃からの幼馴染。

| |
|---------------------|
| 13 題不詳 |
| Title Unknown |
| 制作年不詳 |
| リトグラフ・紙 |
| lithograph on paper |
| 41.9×38.0 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-E-1628 |

| |
|--|
| 朝倉響子 ASAKURA Kyoko 1925-2016 |
| 1925(大正14)年 現在の東京都台東区に、朝倉文夫の次女として生まれる。父より彫刻を学ぶ。 |
| 1943(昭和18)年 第5回新文展で初入選。 |
| 1946(同21)年 第1回日展に初入選。同年の第2回日展で特選。以後、3、6、7回日展で特選。 |
| 1952(同27)年 第8回日展で審査員 |
| 1957(同32)年 第13回日展で審査員(以後、日展へは不参加) |
| 1960(同35)年 アトリエを新設。 |
| 1961(同36)年 文藝春秋画廊(東京)で初個展。 |

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 1962(同37)年 | 朝日秀作美術展、日本現代美術展、日本国際美術展にそれぞれ招待出品。 |
| 1978(同53)年 | ギャラリー・ユニバースで個展。有名歌手他をモデルにした作品を発表。 |
| 1979(同54)年 | 第7回長野市野外彫刻賞受賞。 |
| 1980(同55)年 | 写真集『光と波と 朝倉響子彫塑集』(奈良原一高撮影)をバルコ出版より刊行。 |
| 1982(同57)年 | 第13回中原悌二郎賞優秀賞受賞。 |
| 1988(同63)年 | 福岡市南区のアミューズ高宮広場(西鉄高宮駅前)に、《ソフィー》設置。 |
| 2003(平成15)年 | 北九州市立美術館で個展。 |
| 2016(同28)年 | 東京都で死去。90歳。 |

| | |
|----------------|----------------|
| 14 題不詳 | 15 レベッカ |
| Title Unknown | Rebecca |
| 1979 | 1984 |
| ブロンズ | ブロンズ |
| bronze | bronze |
| 57.0×23.5×10.5 | 30.0×17.0×20.0 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 | 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-G-47 | 2-G-48 |

| | |
|----------------|----------------|
| 16 節子 | 17 題不詳 |
| Setsuko | Title Unknown |
| 制作年不詳 | 制作年不詳 |
| テラコッタ | ブロンズ |
| terracotta | bronze |
| 16.0×14.0×17.0 | 56.0×15.0×18.5 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 | 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-G-49 | 2-G-50 |

*寄贈者の妹がモデルとなっている。

| | |
|----------------|---------------|
| 18 題不詳 | 19 題不詳 |
| Title Unknown | Title Unknown |
| 制作年不詳 | 制作年不詳 |
| ブロンズ | 金属 |
| bronze | metal |
| 54.0×13.0×16.5 | 16.1×12.2×1.0 |
| 2016年矢内良徳氏寄贈 | 2016年矢内良徳氏寄贈 |
| 2-G-51 | 2-G-52 |

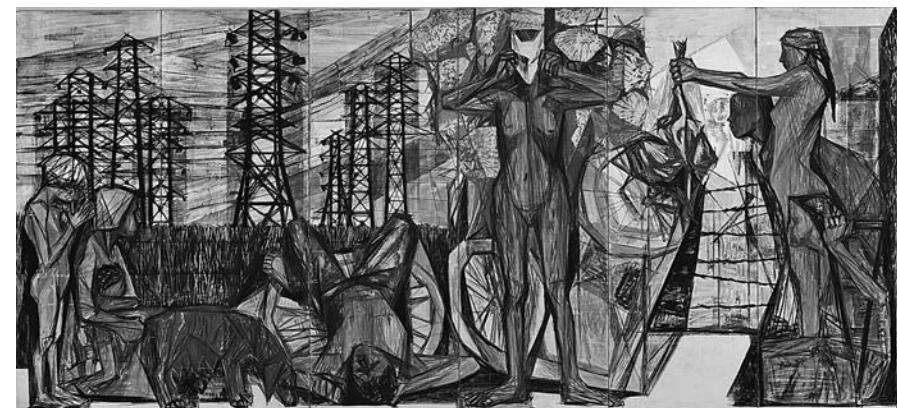
| |
|--|
| 参考文献 |
| 年譜作成にあたり、下記の文献を参照した。 |
| ・「生誕百年 朝倉文夫展」(図録)、大分県立芸術会館、1983年 |
| ・田中修二(編)『近代日本彫刻集成 第二巻 明治後期・大正編』国書刊行会、2012年 |
| ・『朝倉摂展 アバンギャルド少女』(図録)、BankART1929、2010年 |
| ・『朝倉響子展』(図録)、朝地町、2000年 |
| ・『日本美術年鑑 平成29年度版』東京文化財研究所、2019年 |

朝倉文夫・摂・響子

Asakura Fumio, Setsu and Kyoko

会期 2020年1月17日(金)-4月19日(日)

会場 近現代美術室B



左上:朝倉文夫《墓守》1910年

下:朝倉摂《日本1958》1958年

右上:朝倉響子《節子》制作年不詳

日本近代彫刻の草分け的存在として、美術史にその名を刻む朝倉文夫。彼の長女・朝倉摂は日本画家、舞台美術家として、そして次女・朝倉響子は彫刻家として、それぞれ芸術の道に進みました。本展では、近年ご寄贈いただいた作品により、この稀有な芸術家親子の作品をご紹介します。



〒810-0051

福岡市中央区大濠公園1-6

TEL 092-714-6051(代表)

FAX 092-714-6071

www.fukuoka-art-museum.jp

文夫の彫刻は、しばしば「自然主義的な写実」と評されます。モデルのなにげない仕草やポーズを精緻な客観描写でとらえ、数多くの人物や動物（とりわけ猫）の彫刻を制作しました。舞台美術家として知られる摂は、当初は画家の道に進みました。早熟の少女だった彼女は、伊東深水に師事して日本画を学び、特に戦後に描いた作品は、戦争の荒廃から再起しようとする人々の姿を描いて注目され、日本画の世界に新風を吹き込みました。響子は、文夫より彫刻の手ほどきを受け、戦前より新文展で入選するなど、早くからその才能を開花させました。若い女性や著名人をモチーフとした彫刻がよく知られています。

この度の展覧会は、お二人の方からのご寄贈により実現可能となりました。

2016年度に当館は、東京の歯科医・矢内良徳氏（2017年逝去）より朝倉文夫、摂、響子および朝倉文夫門下生の作品21点を受贈しました。矢内家は、朝倉家と代々長きにわたり深く交流されており、この度のご寄贈作品はまさにその証といえるものです。矢内氏は、大切なコレクションを一括して所蔵していただけるところに寄贈したいと希望され、縁あって当館にて所蔵させていただくことになりました。本展では矢内氏よりの寄贈作品の中から朝倉一家の作品13点を展示します。

また翌2017年度には、朝倉摂の長女である伊藤亜古氏より、矢内氏寄贈作品に含まれていた《日本1958》に関連の深い素描5点のご寄贈をお受けしました。これまであまり知られていなかった摂の戦後の意欲作への研究が深まりを見ることでしょう。本展では5点すべてを展示します。

本展開催にあたりまして、矢内家の方々、伊藤氏に多大なるご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

[学芸員 山口洋三]

作家略歴、出品リスト、作品解説

*記載は、題名（日・英）、制作年、技法または材質（日・英）、大きさ（高×幅×奥行、または縦×横cm）、収蔵年、寄贈者名（作品番号2-19）、当館分類番号の順である。

朝倉文夫 ASAKURA Fumio 1883-1964

| | |
|-------------|---|
| 1883（明治16）年 | 現在の大分県豊後大野市に渡辺家の三男として生まれる。9歳で朝倉家の養子となり、朝倉姓を名乗る。 |
| 1902（同35）年 | 大分県立竹田中学校を中退し、実兄の彫刻家・渡辺長男を頼って上京。兄より彫塑を学ぶ。 |
| 1903（同36）年 | 東京美術学校彫刻選科入学。東京鑄金会第1回鑄金展覧会に《眠り獅子》を出品、妙技褒章。 |
| 1906（同39）年 | 三海将銅像制作に応募し、《仁礼中将像》で一等。 |
| 1907（同40）年 | 美校卒業、研究科に進学。谷中天王寺にアトリエを新築。同時に後進の指導も始める。 |
| 1908（同41）年 | 第2回文部省美術展（文展）出品の《闇》が二等賞（文部省買い上げ）。 |
| 1910（同43）年 | 第4回文展に《墓守》を出品し二等賞（文部省買い上げ）。 |
| 1916（大正5）年 | 文展審査員。 |
| 1919（同8）年 | 帝展審査員。 |
| 1921（同10）年 | 東京美術学校教授（1944年辞任）。 |
| 1926（昭和元）年 | 会員約100人を擁して朝倉塾の活動を開始。 |
| 1934（同9）年 | アトリエを改装し朝倉彫塑塾を設立。 |
| 1944（同19）年 | 帝室技芸員。 |

1948（同23）年 第6回文化勲章受章。

1954（同29）年 日展理事。

1964（同39）年 東京都で死去。81歳。

1 墓守

| | |
|---|---|
| Grave-Keeper 1910 ブロンズ bronze 180.0×50.0×46.0 1978年購入 1-G-1 | *文夫の代表作の一つ。第4回文展で2等賞（最高賞）受賞。彼が東京美術学校に通っていたころ、毎日のように出会っていた谷中天王寺の墓守の老人がモデル。老人に取材し、何度も会う中で、彼の自然なポーズと表情を見出し、表現した。朝倉によれば、「爺さん頗る将棋が好きだ。さうして勝敗を争つてゐる最中に時々何心なく笑ふ。その笑ひ顔がいかにもいい」（朝倉文夫「『墓守』について」（談）『美術新報』10巻1号 1911年）。 |
|---|---|

2 猫

| | |
|---|---|
| Cat 制作年不詳 ブロンズ bronze 5.0×20.5×12.0 2016年矢内良徳氏寄贈 1-G-86 | *文夫が無類の猫好きであったことはよく知られ、アトリエには始終猫が出入りしていた。猫をモデルとした彫刻も多数ある。1964年の東京オリンピックに合わせ「猫百態展」という展覧会を企画構想したが、彼自身の死により実現には至らなかった。 |
|---|---|

3 兔

| | |
|--|--|
| Rabbit 1962 ブロンズ bronze 12.0×13.0×26.5 2016年矢内良徳氏寄贈 1-G-87 | *光淳皇后（1903-2000）のお誕生日のお祝いとして制作。モチーフは皇后陛下が卯年生まれであることにちなんで。1963～4年頃、体調がすぐれなかった文夫のため、しばしば矢内氏が谷中の自宅に歯の往診をした。その折、文夫が「君も卯年なんだね」と矢内氏にプレゼントしたという。ちなみに、所蔵家によれば、鋳造されたのは二体のみ。 |
|--|--|



朝倉 摂 ASAKURA Setsu 1922-2014

| | |
|-------------|--|
| 1922（大正11）年 | 現在の東京都台東区に、朝倉文夫の長女として生まれる。 |
| 1939（昭和14）年 | 伊東深水に師事し、日本画を学ぶ。 |
| 1941（同16）年 | 第4回新文展に《小憩》が初入選。福田豊四郎、吉岡堅二らが中心に結成した新美術人協会による第4回新美術人協会展に出品。 |
| 1947（同22）年 | 劇作家・木下順二の劇団「ぶどうの会」が試演した作品「暗い花火」にて舞台美術を担当。 |
| 1951（同26）年 | 第15回新制作協会に出品、会員推挙。 |
| 1953（同28）年 | 前年の新制作協会展に出品した《働く人》で第3回上村松園賞受賞。 |
| 1958（同33）年 | 第3回日本現代美術展に《日本1958》を出品。 |
| 1960年代 | 画家としてよりも舞台美術家としての活動が多くなる。 |
| 1969（同44）年 | 松本俊夫監督の映画『薔薇の葬列』の美術を担当。 |

5 日本1958（下絵）

| | |
|------------------------|-----------------|
| Study for "Japan 1958" | Title Unknown |
| 1958頃 | 1958頃 |
| 墨、コンテ・紙 | 鉛筆・紙 |
| ink and conte on paper | pencil on paper |
| 33.2×72.7 | 41.4×30.6 |
| 2017年伊藤亜古氏寄贈 | 2017年伊藤亜古氏寄贈 |
| 2-D-1623 | 2-D-1624 |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 6 題不詳 | |
| Study for "Japan 1958" | Title Unknown |
| 1958頃 | 1958頃 |
| 墨、コンテ・紙 | 鉛筆・紙 |
| ink and conte on paper | pencil on paper |
| 33.2×72.7 | 41.4×30.6 |
| 2017年伊藤亜古氏寄贈 | 2017年伊藤亜古氏寄贈 |
| 2-D-1623 | 2-D-1624 |



1970（同45）年

| | |
|---|---|
| 新制作協会を退会。ロックフェラー財団の招きで渡米。同地で舞台美術を学ぶ。以後、舞台の仕事を本格化させ、実験的な演劇にオペラなど幅広く活動。 | |
| 1980（同55）年 | 第7回テアトル演劇賞。 |
| 1982（同57）年 | 映画『悪靈島』の美術で日本アカデミー賞優秀美術賞。 |
| 1989（平成元）年 | 昭和63年度朝日賞受賞。 |
| 2006（同18）年 | 文化功労者。 |
| 2010（同22）年 | 舞台美術家としての仕事を振り返る個展「朝倉摂展 アバンギャルド少女」（BankART Studio NYK、横浜市）。 |
| 2014（同26）年 | 東京都で死去。91歳。 |

4 日本1958

| |
|------------|
| Japan 1958 |
| 1958 |
| 紙本着色、六曲一隻 |

colored pigment on paper, a six-fold screen

168.0×368.9

2016年矢内良徳氏寄贈

2-B-37

*第3回現代日本美術展（1958年）出品。《働く人》（1951年）、《日本1958-2》（1958年）と並ぶ代表作的。働く人々の姿、多数の送電塔といったモチーフは、戦後の荒廃からの復興を表し、日本画の伝統を打ち破って新しい絵画を目指した摂の気概を見て取ることができる。